

# 日本人高齢者の 動脈硬化性疾患の疫学

大分大学医学部公衆衛生・疫学講座 齊藤 功

## KEY WORDS

- 高齢者
- 疫学
- 動脈硬化性疾患

## はじめに

動脈硬化性疾患とは、急性心筋梗塞、急性冠症候群、脳梗塞などの主に粥状動脈硬化を起因とする疾患を含んでいる。疫学研究はこれまで、動脈硬化性疾患のなかでも頻度の高い虚血性心疾患と脳血管疾患に関して長年にわたりエビデンスを積み重ねてきた。

脳血管疾患は、くも膜下出血、脳内出血、脳梗塞を含んでいる。さらに、脳梗塞に関しては、臨床経過やCT所見を用いた疫学分類により、穿通枝系と皮質枝系に分類される。後者は、塞栓源となる疾患の有無などにより塞栓型、血栓型、分類不能に分類される。臨床病型では、穿通枝系脳梗塞をラクナ梗塞、皮質枝系脳梗塞の塞栓型を心原性脳塞栓症、血栓型をアテローム血栓性脳梗塞として同義で用いている。

動脈硬化性疾患の頻度は年齢やリスクファクターの関与によって大きく異なる。超高齢社会が急速に進んでいる

わが国において、本稿では高齢者の動脈硬化性疾患の特徴について、疫学的な視点から述べてみたい。

## I. 死亡率の動向

厚生労働省人口動態統計から、虚血性心疾患と脳血管疾患の性年齢階級別死亡率に関する統計情報を得ることができる。死亡統計は、死亡診断書に基づいて集計される統計情報であり、死亡診断の精度に問題はあっても、悉皆性を担保できる点において有益な情報といえる。

虚血性心疾患〔国際疾病分類第10版(ICD-10)：I20～I25〕ならびに脳血管疾患(I60～I69)の死亡率は、年齢とともに指数関数的に増加する(図1)。男女比では、80歳までは男性の死亡率が2倍以上高いが、80歳以上になると男女の死亡率の差は小さくなった。

脳血管疾患を出血性脳卒中(くも膜下出血：I60, I69.0, 脳内出血：I61,

Epidemiology on atherosclerotic cardiovascular diseases in elderly Japanese.

Isao Saito (教授)